

低学年軟式野球交流大会

競技運営上の細則

取り決め事項

- 1 1 単位団 1 チームとする。（但し、本年度は市町村で混成チームを編成してもよいが、混成チームを編成する場合は、双方の団に 2 年生以下の登録団員がそれぞれ 1 人以上いること。）
- 2 選手は、県スポーツ少年団に登録済の者とする。
- 3 チーム編成は、1 年生から 3 年生までの男女学童とする。
未就学児の登録は、安全確保が困難な為に不可とする。
- 4 野球を楽しませる組織にすること。

- 1 試合ボールは、軟式 D 号ボールを使用する。
- 2 試合回数は、5 回とするが 5 回に満たなくても **40 分** を経過したときは、新しいイニングに入らない。
1 イニングの得点可能点数は 5 点までとし、規程の得点数に達した場合には、その時点で攻守交替とする。延長戦は行わない。同点は抽選とする。
- 3 相手チームが棄権した場合は、5 対 0 で勝ちとする。
- 4 服装は、特定しないが運動の出来るものを着用し、必ず着帽すること。
- 5 靴は、運動靴とする。
- 6 ヘルメット着用は、打者と走者で最低 4 つ用意する。
- 7 捕手（キャッチャー）は、マスクとキャッチャーヘルメットを着用する。また、その他の防具を着ける事が望ましい。（例：レガース、プロテクター、ファウルカップ等）
- 8 ビヨンドバット等の複合バットの使用は禁止する。（通常のアلمミバットが望ましい）
- 9 盗塁は、認めない。なお、ランナーは、打者が打ったとき以外は離塁できない。
- 10 投げる人は、味方チームの大人（お母さんが望ましい）が下手から投げてやること。
- 11 フェア・グラウンドの飛球（フライ）について
 - ・内野手が処理した場合は、捕球アウト、落球はセーフとする。
 - ・外野手が処理した場合は、捕球またはグラブに触れて落球してもアウトとする。
- 12 ファウル・グラウンドの飛球（フライ）は、捕球アウト、落球はファウルとする。
- 13 競技場は、各塁間 21 m、投手よりホームプレート間 8.5 m とする。
- 14 ベースは移動とする。
- 15 投手（ピッチャー）の守備位置は、ホームから 2 塁ベース線上の 14 m 地点を中心に直径 2.5 m の円形を描いた範囲内とする。
- 16 一塁、二塁、三塁、本塁は、捕球または、グラブに触れて落球してもアウトとする。ただし、二塁、三塁、本塁でホースプレー以外は、タッチプレーとする。その場合、落球してもアウトとする。
- 17 打者は、2 ストライクまでは、カウントを取るが、**その後空振り以外は三振を取らず、四球はない。**
- 18 審判は、両チームから 2 名ずつとする。
- 19 各チームは、必ず責任者と監督をおくこと。
- 20 打球が、投手（大人）に当たった場合は、ボールデットでノーカウントとする。
- 21 バンド（スクイズも含む）は禁止とする。
- 22 ランナーコーチは大人とする。
- 23 タッチアップは採用しないが、離塁をしていてボールが元の塁にかえた場合はホースアウト。但し、捕球しないで、ボールがグローブに触れてアウトの場合はボールデットとする。
- 24 外野ゾーンは 50 m 曲線とする。
- 25 ベンチの指示は監督、コーチ、のみとする。親は応援のみとする。

◎ その他の条件

- (1) 群馬県スポーツ少年団軟式野球専門部会では、平成26年度から指導者研修事業を行い、研修会参加を義務化しております。研修会参加証明書を地区大会から所持してベンチ入りして下さい。
- (2) 攻守を決める際、主将と同行する指導者は、研修会参加証明書を所持している者とし、大会本部の認証をえる。
- (3) 平成26年度~28年度の3年をかけて指導者ライセンスの取得と、リフレッシュポイント制度を29年度より施行しています。
- (4) ライセンスを取得していない指導者のベンチ入りは地区大会より認めない。但し、急遽監督が交代になり指導者ライセンスのポイント不足の生じたチームは、2022年度上申書を提出した監督は優遇処置として認める。なお、当該年度に必ず研修会に参加しポイントを取得する事を確約する。不明な点がありましたら、支部代表責任者にお尋ね下さい。

※来年度よりコーチングアシスタント及びスタートコーチの指導者資格が必須となりますので注意してください。